

2022年度 タカラ・ハーモニストファンド 助成先 一覧

	助成先 代表者名	助成額 活動地域	テーマ 活動・研究の内容、目的、助成金の用途等
活動 の 部	動物生態学研究室 佐藤 智	50万円 山形県	<b>50年放棄水田の復活プロジェクト</b> 人口流出に耕作放棄地の増加、自然豊かで懐かしい棚田の風景が急速に消えゆく日本の山村と、それに伴い失われていく豊かな水環境。本活動では山形県鶴岡市中山の山村で50年に長きにわたって放棄された水田を村民と地域の大学が力を合わせて新しく生まれ変わらせる活動をしています。田んぼの生きものの代表タニシは鶴岡市近郊の山間部ではほぼ絶滅しています。復活させた水田は無農薬、冬季湛水など生きものに優しい方法で維持管理を行い、集落で見つかった唯一の生息場所から得た個体を同集落で復活させた耕作放棄地に放します。またタニシなどの生物を不安に思う地域住民もおり、自然環境の理解を大いに啓蒙します。
	つくば里の生きものくらぶ 田中 裕之	30万円 茨城県	<b>農作業体験と生きもの観察会による食生活と身近な緑空間の必要性を考える地域支援事業</b> 環境に優しい農法を実践している田んぼなどで田植えや稲刈り、案山子作りなどの農作業体験と生きもの観察会を伴うイベントを実施し、土や泥との触れ合い、多様な生きものとの触れ合いを通して、農業と農景観と生きものとの繋がりを実感してもらっている。また、新米をいただく収穫祭を行うことにより、農業と環境と食生活についての理解も深めてもらっている。さらに、近年ではコロナ禍によりキャンプなどの野外活動のニーズもあり、雑木林を利用・活用して収穫祭を行うほか、炭焼き体験、キャンプ体験などの野外活動の充実を図り、農地や雑木林といった身近な緑地空間の価値や必要性を再認識してもらう。
	恩田の谷戸ファンクラブ 藤田 廣子	15万円 神奈川県	<b>恩田の谷戸の竹林・小川・田畑の保全活動</b> 横浜市の青葉区という都市部の住宅街に囲まれた貴重な自然環境を守り、次世代に伝えることを目的とする。具体的には①釜の生息する小川の環境整備、②竹の適度な間引きによる竹林環境の保全と竹資材の有効活用、③田畑作業を通じた技術と文化の伝播である。特に③については、稲作は会員のみならず、都市住民である近隣住民や学生の受け入れも行い、手作業での田植え、稲刈り、天日干し、そして足踏み脱穀機や唐箕といった昔ながらの農機具を用いた農作業を体験してもらうことで、外部にその文化と自然環境の魅力を伝え、自然環境保護の啓蒙を担う事業となっている。
	たましま 干潟と鳥の会 西井 弥生	47.6万円 岡山県	<b>たましまの未来に渡り鳥の集う干潟を残したい！！</b> 「瀬戸内海の環境の保全に関する岡山県計画」には、昭和20年頃に約4,000haあった干潟も、大規模干拓や沿岸開発で平成18年に527haとなっている事、その干潟も泥の堆積で環境の悪化が認められる場所がある、と記載されている。 当会で実施した干潟を利用する渡り鳥(シギ・チドリ類)の調査では、渡り期、越冬期ともに人工島の埋め立て地で最も多くなるという結果に。 県内の干潟の危機的状況、いきものの生息環境が狭められている現状、干潟の環境を良くすることで、たくさんのおいしものや海の環境にも良いという事を地域住民に啓発するとともに干潟の魅力を伝え、守り育てて次世代に残したいと思う人を増やすことが目的。
	上小丸川漁業協同組合 小路 文喜	50万円 宮崎県	<b>絶滅危惧種となったニホンウナギにとって好適な自然環境の整備に向けた調査</b> 宮崎県小丸川水系の本支流には6基のダムが存在し、その全てのダムには魚道が設置されていない。小丸川上流域ではダムが建設される度に、段階的にウナギの漁獲量が減ったとの証言がある。ダムによるウナギの遡上問題を解決すべく、ダム管理者である九州電力とこれまでに3回の協議をおこなった。その結果、ダム近辺におけるウナギ生息調査の許可を九州電力から得た。そこで本活動として、1)斜面のある最下流のダムは小さなウナギは登れることを明らかにする。また、2)同ダムの上下でウナギの生息密度が異なることを明らかにする。この活動を、大きなウナギも遡上できる魚道設置の実現やダムとウナギの共存へのモデルケースとしたい。
	特定非営利活動法人 西表島エコツーリズム協会 平良 彰健	50万円 沖縄県	<b>西表島・浦内川における希少魚類のモニタリング</b> 西表島に流れる浦内川は、主流長がわずか20kmでありながら、環境省指定の絶滅危惧種(ⅠA～Ⅱ類まで)に指定されている魚類が40種以上確認されています。国内では浦内川のみが生息する魚類も何種もあり、西表島エコツーリズム協会では、2015年より定期的な希少魚類のモニタリング調査を実施しています。源流部から海に流れ出るまでの間、まったく人口の堤防が築かれていない稀に見る豊かな環境を誇る川ですが、地球温暖化や観光客の増加によって、その環境が変化していくことが懸念されています。本活動では、長期にわたってモニタリングを継続し、環境の変化を察知することで、豊かな浦内川の保全に貢献することを目的としています。

	助成先 代表者名	助成額 活動地域	テーマ 活動・研究の内容、目的、助成金の用途等
研究 の 部	野田 英樹	50万円 山梨県 石川県	<b>山梨県の淡水ガメ生息調査および石川県の淡水ガメ長期調査</b> 淡水性カメ類の野外研究は、その地域の研究者の有無で研究活動に地域差が生じている。山梨県はカメ類研究の空白地帯であり、在来種はもちろん、外来種の分布状況すら見が不足している。千葉県等他の地域では固有種のニホンシガメが減少し、国内外来種のクサガメや、侵略的外来種であるアカミガメの分布が拡大している。そのため山梨県内においても分布調査を実施し、在来種を保全するための基礎研究を行う必要がある。また、石川県では2001年から2017年まで、長期的な野外研究が行われていたが、申請者の転職によりその後のモニタリングが行われていない。そのため、山梨県および石川県で淡水性カメ類の捕獲調査を実施する。
	大河原 恭祐	50万円 福井県	<b>鳥類による種子散布の変動と異常気象の関連について</b> 2005年から福井県越前町の織田山鳥類観測ステーションで渡り鳥の排泄物を採集し、鳥による種子散布行動を観察してきた。また周辺の森林の果実の結実動態も同時に観察し、鳥散布の種間関係によって構築される鳥と植物間の共生系ネットワークの構造や変化について調べてきている。しかし、2017年からの極端な気象条件の変化と共に果実の結実動態や渡り鳥の散布行動に変化が生じ、今後同じ状況が続いた場合、この鳥散布ネットワークが不安定化、あるいは消失する危険性がある。本研究ではこの鳥散布ネットワークのモニタリングを行い、異常気象が共生系ネットワークや生態系に与える影響を明らかにすることを目的としている。
	惣田 彩可	50万円 京都府	<b>年間を通じたミソサザイの生態に関する調査</b> 鳥類は食物連鎖における高次捕食者であり、豊かな生態系の維持において重要な存在である。本研究で対象とするミソサザイは山地の溪流沿いで生活する小型の鳥であり、その分布は良好な森林生態系が形成されている指標となる。現在、6都県で絶滅危惧種または準絶滅危惧種に指定されているが、日本では基本的な生態に関する情報は不足している。特に、活発に行動する繁殖期と比べて非繁殖期における生態はほとんど調査されていない。本研究は、ミソサザイの生態を詳細に調査することで、保全活動に必須となる基礎的な生態的知見を提供し、ミソサザイの住みかとなる森林生態系の保全に貢献することを目的とする。
	高原 輝彦	50万円 鳥取県 島根県	<b>絶滅危惧種タガメの生息予測モデルの開発と保全への活用</b> ため池は多種多様な生物が利用しており、生態学的価値が高い。ため池の上位捕食者である大型水生昆虫タガメは、近年、絶滅危惧種に指定されるほど激減しており、保全に向けた取り組みは急務である。そのためには、何よりもまず本種の生息場所の特定が必要である。申請者らはこれまでに、野外では水を汲むだけの革新的な生物モニタリング手法“環境DNA分析”をタガメを対象にして開発し、島根県のため池100面ほどの調査から本種の新規生息場所を発見した。その成果を元に本研究では、山陰地方における包括的な環境DNA調査と機械学習などの数理モデルを用いて、タガメのホットスポットの特定とため池生態系の重点保全地域を明らかにする。
	長谷川 匡弘	50万円 長崎県	<b>島嶼草原の送粉生態系及び絶滅危惧種ヒメツルアズキの繁殖生態の解明</b> 1)消滅の危機にある島嶼草原の開花植物と送粉動物のネットワークを明らかにし、2)その中で特に絶滅の危険性が高いヒメツルアズキの生育状況、繁殖生態を解明する。花とそれを訪れる動物が形作る送粉生態系は世界中で劣化していると考えられ、その解明が急務である。特に島嶼部の草原環境では、特異な送粉動物や植物が知られているにも関わらず、生態学的調査はほとんど実施されていない。本研究では、現状では良好な草原環境が残っているが、メガソーラー発電所建設で大きく環境が変わる長崎県宇久島で、開花植物と訪花昆虫が作るネットワークの網羅的調査を行う。またその中で、特に希少な草原性植物ヒメツルアズキに着目する。
	助成総額	492.6万円	